



ジェフリー・マイケル・カーンズ博士（医学）は、オハイオ州コロンバスで生まれた「バックアイ」（オハイオ州生まれの人のこと）で、オハイオ州クリーブランドの郊外で育ちました。若い頃から、医学に興味があり、父は眼科医、母親は看護婦でした。

後に、オハイオ州立大学に通い、医大へ行くための授業を受けながら、人類学と日本語の両方について学びました。文化と言語への関心により、名古屋の南山大学に一年間留学しました。日本での学びについては、日本学生支援機構（JASSO）の奨学金を授与されました。留学中、将来の妻となる絵梨奈とも出会いました。

ダブル・メジャーでマグナ・クム・ラウデ（成績上位 10%）として卒業した後、彼は 2 年間、ケース・ウェスタン・リザーブ大学とクリーブランド・クリニックで最先端研究を行ってきました。次に、東海岸に移り、ニューヨーク州ウェストチェスターにあるニューヨーク医科大学の医学部に通いました。医学部在学中に結婚し、最初の子供、可愛らしい女の子が生まれました。

「プライマリーケア」についての高等教育を受けたいと願い、寒さの厳しいニューヨークから温暖気候の地へと、ドクター・カーンズはカリフォルニアのカイザー・フォンタナ医療センターでの研修に参加しました。さらに、老年医学にも興味を持ちました。カイザー・フォンタナ医療センターで老年医学のインターン研修を開始する前には、さらに新しい家族・息子に恵まれました。

研修を通じて、ドクター・カーンズは患者への治療を継続的かつ最大限に提供するために努力しました。入院治療、緊急医療、老人ホームでの介護、診療などに精通する傍、「医療コンシェルジュ」としての仕事に興味を持ち始めました。医療コンシェルジュは、患者が治療を変更する際の困難を伴う移行について、変更前変更後の治療をリンクさせ、統合するために役立ちます。

家族と一緒に過ごし、父親であることは、人生における最大の喜びの一つです。海で時間を過ごしたり、ハイキングしたり、新しい食べ物を試してみることが好きです。

患者のユニークで魅力的なライフストーリーに関わり知ることができるということは、ドクターが医学に進んだ理由そのものです。患者はただの患者ではなく、家族のような存在であることから、妥協のない最先端の治療を提供するために努めています。

ドクター・カーンズの専門分野には以下のものが含まれます：

- 高齢者医療
- 記憶力評価
- 老人ホーム介護
- 緊急医療
- 診療所内処置